

全国学力学習状況調査の結果から見える子どもたちの姿

◇シリーズその12◇

全国学力学習状況調査の結果につきましては第4号より随時お伝えしていますが、国・道・市の結果や見解を受け下のようにまとめましたのでお読みください。また、本日配布した別紙の資料には「家庭でできる3つの試み」(①学習時間を確保する②時間を有効に使う③心を育てる)が記載されています。学年末、そして次の学年にむけておうちで取り組んでくださることを期待しています！

本校における成果と課題等

- 「なぜなら～」と理由を付けて話す力がついています。
- 文章を読んで考えたことをまとめて書く力がついています。
- 問題を解決するために効果的に読書をする力が伸びています。
- 漢字を正しく読む力はついています。複数学年で習得する漢字が組み合わせさせた熟語の知識に課題がみられます。
- ▲表現方法の工夫をとらえる力や、表現方法についての知識が十分とはいえません。
- ▲条件に合わせて書く力や、「～たり、～たり」などをつかって、二文を一文にする力をさらに確実にしていく必要があります。

国語科

今後の学習指導改善に向けて

昨年度課題の見られた「書く力」に大きな伸びが見られました。1年間ノート指導を徹底し、国語に限らず全教科において「書く活動」を授業に取り入れた成果だと考えます。またご家庭でも毎週の作文宿題にご協力いただきました。

今後、さらに子どもたちの力を伸ばすために、書かれている内容をもとに自分の考えをまとめ、共通点と相違点を考えながら話し合うといった学習を続けていきます。また、文章を書く目的や意図に依りて、全体の構成を効果的に工夫できるように指導も継続的に進めていきます。課題となった条件に合わせて書く力を育てるために、「〇〇字でまとめる」「□□を使って書く」というような機会を増やしていきます。さらに、文章の読み方の違いを捉えることができるよう、文章を比べて読んだり、読み方の着眼点をしっかりと押さえたりできるように指導をしていきます。そのためにも、教科書教材に関連する図書を紹介して読書意欲を高めたり、児童用新聞の展示等で新聞記事やコラムなど様々な種類の文章に接する機会を増やしたりしていきます。また、漢字については進級式漢字テスト等活用して正しく読むこと書くことをていねいに指導するとともに、日常的に漢字や慣用語を使う機会を拡充したり、辞書などを積極的に活用したりしながら、語彙を広げていく学習を進めていきます。

本校における成果と課題等

- 四則計算や計算のきまりなどは、授業で学習した内容を身に付けています。
- 体積を求めたり、図形を構成したりする力、グラフを読み取る力を付けています。
- ▲「百分率」や「単位量あたりの大きさ」に課題がみられ、求めようとしているものを導くための立式が正しくできない傾向がみられました。

算数科

今後の学習指導改善に向けて

今年度は基礎的な四則計算や図形領域で、手応えが感じられ、「きらめきタイム」などを活用した繰り返し指導や少人数指導・TTなど指導体制の工夫の成果であると考えます。

反面、特定の時期に学び、ほかの単元であまり活用されない知識(百分率、割合など)は、十分身に付いていないことがわかりました。これら「忘れられてしまう単元」については、意図的に他の学習と関連させて繰り返して指導していくことが必要だと考えます。また、問題文を理解し、違う言い方や図などで表現する力を育てることで、見通しをもって立式し、実際に数を入れてみて振り返る力を育てていきます。また、「数学的な思考力」を育てるために、ただ公式を覚えるのではなく、「なにを求めるといふためになにが必要なのか」を明らかにし、「なぜ、その式を使うのか」といった「なぜ」を大切に授業づくりを大切にしていきます。